



高齢者の暮らしを
多くの女性スタッ
フが支えている

働きやすさ重視で定着率アップ ライフイベントの退職もゼロ

社会福祉法人 長寿会

子育て支援制度充実 離職は業界大きく下回る

介護業界は女性が圧倒的に多い業界だ。厚生労働省の2018年の調査では71.6%に上る。そんな中、珠洲市と能登町で特別養護老人ホームやグループホームなどさまざまな介護サービスを提供する長寿会の職員の女性比率は、業界標準とほぼ一致する72%である。「女性ならではの気遣いや優しさが生きる仕事であり、必然的に女性の採用と登用が多くなります。介護業界は女性の活躍なくしては成り立ちませんし、女性に働きやすい環境でなければすぐに立ちゆかなくなってしまう」。椿原晃事務局長がそう話すように、同会では国内で働き方改革や女性活躍の気運が高まる以前から、こうした視点での職場作りにいち早く取り組んできた。

一例が、子育て支援制度の充実ぶりだ。労働基準法では、産休は出産予定日の6週間前から取得できると定められているが、同会では2005年の段階で8週間前から取得できるようにしている。さらに、出産祝いとして10万円を支給する制度もあり、対象には職員の配偶者も含まれる。これらの産休に加え、育休の取得率も100%に達する。

短時間勤務制度も大きく拡充しており、改正育児・介護休業法では子ども

が3歳になるまでが対象だが、同会では小学校入学まで利用可能だ。もちろん、この間は夜勤免除となる。

同会が子育て支援制度を充実させてきた背景には、地域的な事情が大きい。過疎と高齢化が著しく進行する奥能登では、人員の補充が極めて難しいのだ。だからこそ、従業員の定着率を高める必要があったわけだ。加えて、子供を子宝と捉える傾向も強い。

実際、介護業界の離職率は15.4%（2020年、(公財)介護労働安定センター調べ）だが、同会は2.9%であり、ライフイベントでの退職もほぼなく、大きな成果を挙げている。

明確なキャリアパスと 公正な評価制度

また、長期的な視点での働きやすい環境も整備してきた。一例がキャリアパスの明文化だ。特に際立つのは、8段構造になっているすべての職階で給与や昇格条件を文書化し、全従業員に周知していることだ。例えば、一番下の一般職初級から一般職中級に昇格するには、経験5年以上かつ人事考課65点以上が必要になる。

この明文化に併せて、「考課の手引き」も作り、手引きに基づき考課点をつける

ことで、誰もがフェアに査定し、査定される体制を整えた。他にも、まとまった休暇を取りにくい業種であることから、3年ごとに5連休を取得できるリフレッシュ休暇制度も取り入れている。

このように、一貫して従業員重視の長寿会ではあるが、現在、予想外の男女格差に直面している。制度の活用状況に男女間で大きな隔たりがあり、高堂泰孝次長は「女性の働きやすさを念頭に制度を作ってきたせいか、看護休や介護休などは女性だけが利用するものという空気ができてしまった」と説明する。こうした現状を改善するため、同会では今後、男性職員の制度活用を積極的に促していく考えだ。



働き続けられる職場作りに心を砕く椿原事務局長(左)と高堂次長

DATA

■所在地/ 珠洲市宝立町春日野 4-117 ■代表者/ 中嶋復太郎 ■設立/ 1983年 ■従業員数/ 235名(男性: 66名/女性: 169名)
■事業内容/ 高齢者福祉施設の運営